慶應義塾大学学術情報リポジトリ

Keio Associated Repository of Academic resouces

· · ·	
Title	古ハワイにおける土地制度の変遷
Sub Title	The growth of the landholding in old Hawaii
Author	野村,兼太郎
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1960
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.53, No.5 (1960. 5) ,p.417(1)- 422(6)
JaLC DOI	10.14991/001.19600501-0001
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19600501-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ワ 动 地制度の

新刊紹介

『イタリアのヒューマニズム』…………渡 辺 和 一 郎 81

保 78

誠 79

増淵龍夫著『中国古代の社会と国家』 ……平

-----秦漢帝国成立過程の社会史的研究-

『消費経済学、日本の消費構造と需要予測』 ……佐 藤

――ルネサンスにおける哲学と市民生活―

『社会経済史大系』…………寺

安永武巳著

エウジェニオ・ガレン著 純

及び「古ハワイにおける漁業」(「三田学会雑誌」第五十一巻第十二 る社会階級の発展」(「社会経済史学」第二十三巻第五・六号所載)、 て」〇三田学会雑誌」 関係があるから参照して欲しい。 号所載)の三篇を公にしたが、それらは本論文の土地制度と密接な 第五十巻記念論文集所載)、「古ハワイにおけ すでに「ポリネシア人のハワイ移住につい

ていたため、早くからそれらの文化の影響を受けて、古い形態は亡 営まざるを得なかったことにある。日本の場合は支那大陸に近接し ていたと思われるが、 共に火山列島に移住し、恐らくその以前にはある程度の文化をもっ 本民族の祖先と同様に、その時期においてはかなり隔ってはいるが、 私が特に古ハワイの社会経済生活に興味を感じたのは、彼らが日 いずれも漁撈を中心とする新しい社会生活を

太

慣行や制度は起らないかも知れない。 ことは出来ない。当然陸地と密接な関係を生ずる。もちろんそれら 幾多の伝説はこれを証するものである。要するに漁撈民族にとって、 してどこでも得られるわけではない。 の木材が空気のように無限に存在するならば、一定の土地に関する る者もあるが、その場合でもその船舶の材料はこれを海上から得る にわが国の家船ー ても大部分はその住居の根拠地は土地に求めなければならない。時 かに違ったものがあったに違いない。もちろん漁撈を主としたとし 有の形態がどうであったか、それらは農牧を生業とした民族とは確 かった民族が土地に対してどういう観念をもったか、 あまり著しい変化を受けずに残存していたと考えてよかろう。 に進んだ文化を有する民族が存在していなかったから、 漁撈を主とした民族、あるいは漁撈を主たる生業とせざるを得な -海人族の一部のように、水上生活を行なってい しかし船舶に適する木材は決 ハワイにおけるカヌー製作の 又その土地占 古い形態が

ある。 において農耕民族や放牧民族の場合と土地の観念が著しく違う筈で必要な素材を採取する場所として意義を有するに過ぎない。 その点

代の状態を推定してみようと思うのである。代の状態を推定してみようと思うのである。それらの勢力が漁撈には、ハワイ人にとって農耕は重要な生業の一つになっていた。従って前述の方面があり得る土地制度は原始型ではない。従って前述の方面があり返さない。むしろわかっている土地制度な原始ではない。従って前述のでは繰り返さない。むしろわかっている土地制度な原始型ではない。従って前述の代の状態を推定してみようと思うのである。

古ハワイの状態を一部の史家は封建(Feudalism)としているが、古ハワイの状態を一部の史家は封建(Feudalism)としているが、古ハワイの状態を一部の史家は封建(Feudalism)としているが、古ハワイの状態を一部の史家は封建(Feudalism)としているが、古ハワイの状態を一部の史家は封建(Feudalism)としているが、古ハワイの状態を一部の史家は封建(Feudalism)としているが、古ハワイの状態を一部の史家は封建(Feudalism)としているが、古ハワイの状態を一部の史家は封建(Feudalism)としているが、古ハワイの状態を一部の史家は封建(Feudalism)としているが、古ハワイの状態を一部の史家は封建(Feudalism)としているが、古ハワイの状態を一部の史家は封建(Feudalism)としているが、古ハワイの状態を一部の史家は封建(Feudalism)としているが、古ハワイの状態を一部の史家は封建(Feudalism)としているが、古ハワイの状態を一部の史家は封建(Feudalism)としているが、古ハワイの状態を一部の史家は封建(Feudalism)としているが、

維持していた。極めて安い値段で放出し、終にこの有力な財源を枯 当初においては白檀(sandal-wood)の輸出に依って、その経済を 社会が近世国家となることは殆んど不可能であったのである。開国 源は極めて乏しいものであったから、それを基礎として構成される Mahele)として知られている 土地分割令に依って 完成されたので たのである。従って近世的な土地制度の樹立も容易に形成されず、 船の停泊地として好景気を維持することが出来たが、いずれもハワ **渇してしまった。幸いにも一時ではあったが、太平洋における捕鯨** 意味のあるものであるから、全然無視するわけにはいかない。マヘ 目的ではないが、その以前の土地制度の本質を知るためには重要な ある。もちろん本論文においてはこの土地分割令そのものは直接の イ自体の産業的基礎を形成するのには、到底役立つものではなかっ 割することを原則としたのである! (貴族) 及びコノヒキ(代官)、闫小作人及び庶民の三者に平等に分 レ というのは 分割と いうことであるが、土地を 臼国王、臼アリイ 前において土地の所有権が誰に属していたか明かでなかったことが Division of 1848," 1958, p. 15)。これに依ってみても、 かった (Jon J. Chinen, "The Great Mahele, Hawaii's Land 一八四八年にカメハメハ三世(一八二四―五四)の大マヘレ(Great 元来、ハワイ、マウイ、 カフラウイの八つの小さな島からなるハワイ諸島の経済的資 この点においては明治維新直後のわが国の状態に幾分 オアフ、カワイ、 -実際にはこの通りには出来な モロカイ、ラナイ、ニイ

地に対する観念がより原始的であったと考えてよかろう。ハワイの場合の如き分割令を必要としなかった。ハワイの場合は上していて、それが大体直接土地に結びついて考えられていたから、似ている。しかしわが国の場合には「地主」という観念が相当発達

__

応説明して置く。 に知られた頃の、又一八四八年の土地分割令以前の土地の区分を一た。今それについて述べるに先立って、一七七八年ハワイ諸島が世っては独立していて、それぞれの島がいくつかのモクにわかれていクであった。もちろん八つの小島もカメハメハー世の統一以前にあクであった。もちろん八つの小島もカメハメハー世の統一以前にあんだのところでもすでに述べたように、土地区劃の最大の単位はモ

エカアに過ぎないものもあれば、大きいのは十万エカアに達するもで、 いさいて 述べて置いた (「三田学会雑誌」第五十一巻 第十二号を において 述べて置いた (「三田学会雑誌」第五十一巻 第十二号 だるアリイ又はコナヒキが魚類や海草を海から得、タロ芋やバナナたるアリイ又はコナヒキが魚類や海草を海から得、タロ芋やバナナたるアリイ又はコナヒキが魚類や海草を海から得、タロ芋やバナナーで 遠べて置いた (「三田学会雑誌」第五十一巻 第十二号業」において 述べて置いた (「三田学会雑誌」第五十一巻 第十二号 本カアに過ぎないものもあれば、大きいのは十万エカアに達するも アフ・カー で はっていた。 もちろん地形に依っては、この理想型を得られないアファアもあったし、その広さも大小さまざまであった。小さいのは百 アフもあったし、その広さも大小さまざまであった。小さいのは百 アフトに がいることも前掲論文 「古ハワイにおける漁 キャッパさらに細分されて、アリイ又はコノヒキに依って支配され モクがさらに細分されて、アリイ又はコノヒキに依って支配され まりがさいまします。

のもあった。

地帯に求める権利が与えられたのであろう。 地帯に求める権利が与えられたのであろう。 地帯に求める権利が与えられたのであろう。 地帯に求める権利が与えられたのであろう。 地帯に求める権利が与えられたのであろう。 地帯に求める権利が与えられたのであろう。 とアフプアアの土地の区分は恐らくハワイ移住後、間もなく を主とする限り、土地は占有されるが、単に漠然とした縄張りを示すに過ぎなかった。アフプアアも最初はアリイに与えられた縄張りを主とする限り、土地は占有されるが、単に漠然とした縄張りを示すに過ぎなかった。アフプアアも最初はアリイに与えられた縄張りを示すに過ぎなかった。アフプアアも最初はアリイに与えられたの原緒 が形態においては単なる地理的分割とみるべきではなかろう。漁撈 が手に過ぎなかった。アフプアアの土地の区分は恐らくハワイ移住後、間もなく

なってから生じたものとみてよかろう。 ところがアフプアアより小さいイリ (ii)と呼ばれるものがある。 ところがアフプアアより小さいイリ (ii)と呼ばれるものがある。 注意 は、三十イリ、四十イリと多く存在するところもある。注意 は、三十イリ、四十イリと多く存在するところもある。注意 ところがアフプアアより小さいイリ (ii)と呼ばれるものがある。

古ハワイにおける土地制度の変遷

においては、かなり困難な仕事であることである。先にイリの生じたのは農耕が盛んになってからである。先にイリの生じたのは農耕が盛んになってからである。たにイリの生じたのは農耕が盛んになってからである。かくして農耕は一部には相当発達をみせているものである。そこである一部の者だけが灌漑用水を作って、農耕を営み、それらがイリの所有者として、自由農民的存在を示すに至ったのである。そこである一部の者だけが灌漑用水を作って、農耕を営み、それらがイリの所有者として、自由農民的存在を示すに至ったのである。そこである一部の者だけが灌漑用水を作って、農耕を営み、それらがイリの所有者として、自由農民的存在を示すに至ったのである。ただ農耕に依る産物、その他のものを貢納する義務をもって一た。ただ農耕に依る産物、その他のものを貢納する義務をもって一た。ただ農耕に依る産物、その他のものを貢納する義務をもって一た。ただ農耕に依る産物、その他のものを貢納する義務をもって一た。ただ農耕に依る産物、その他のものを貢納する義務をもって一た。ただ農耕に依る産物、その他のものを貢納する義務をもって一た。ただ農耕に依る産物、その他のものを貢納する義務をもって一た。ただ農耕に依る産物、その他のものを貢納する義務をもって一た。ただ農耕に依る産物、その他のものを貢納する義務をもって一た。ただ農耕に依る産物、と呼ばれる耕作地の存することにより、

要とするに至ったのであろう。
一般に農耕の起源は古いものとされている。殆んど漁撈と同時に要とするに至ったのであろう。それがやがて人口が増加するにつれてタロ芋などの裁培を必めなどから、困難の多い農耕労働に従事する者がなかったからである。一つには労働力の大部分が漁撈に吸収されていたこと、かも知れない。しかし最初のうちは殆んど農耕に成功しなかったよであったとすれば、農耕技術も知っていたろうし、種なども持参したとなどから、困難の多い農耕労働に従事する者がなかったからであろう。それがやがて人口が増加するにつれてタロ芋などの裁培を必となどから、困難の多い農耕労働に従事する者がなかったからであろう。それがやがて人口が増加するにつれてタロ芋などの裁培を必らいた。

マロのいう乾燥地帯というのは火山地方特有の傾斜地であり、わ

帯がないところ、例えばニイハウ島などを除いて、水流地帯よりも **耕技術もはるかに進んだものになり、灌漑用水の施設も出来上って** 較にならないくらい骨が折れるものであった。従って恐らく水流地 ばならない。しかも永い月日を要するので、水流地帯の耕作とは比 ろう。タロ芋が相当の大きさに育つまで何度も雑草刈をやらなけれ ずっと後れて開発されたのではなかろうか。水流地帯においては農 いた。しかし全体として農業は第二次的であったように思われる。 み等をつめ込み、そこに畑作タロ芋を植える方法を採用する。この を刈りとり、穴をいくつも掘り、その穴の中にククイの葉、灰、 て雨水を貯め、灌漑設備を作らなければならないが、怠惰な土人の を流れ去ってしまい、不毛の地とならざるを得ないのである。従っ よくするところではない。そこで耕作しようと思う広さだけ、雑草 てこれを開発するためには土地を段畑形式にし、所々にダムを作っ あり、たちまち晴れ渡って熱帯の太陽が強く照るので、直ぐ乾燥して アリイが武技を専業とするようになると、被支配層であるマカア しまうのである。相当の雨量があっても、傾斜地では大部分が表面 の意味が禿というのでもわかるように、耕作には困難な土地柄であ る。後に近世になってハワイ語でクラ(kula)と呼んだ耕地で、そ が国の「の」に当るが、傾斜の度はわが国よりもけわしいようであ ハワイは雨の多いところで、殆んど毎日雨は降るが、褜雨性で (maka, ainana) が漁民として、又農民として活躍するこ 古ハワイにおける土地制度の変遷 金属農具をもたない彼らにとっては相当の労働であった

> ないかと思われる。 ワイ名物のポイ(poi)の原料となるタロ芋の生産を重視したのでは の存在を前述の如くその特徴とする点からみても、農産物、 合に得やすかったかも知れないが、農耕の方はあまり簡単に得られ もちろんイリの土地は農耕に限定されていたわけではないが、耕地 に従事していた。ところが優れた漁夫は漁業中心の社会であり、割 をその支配するアフプアアにもつことである。即ち第二の段階にお が、それらのアリイを有力ならしむるものは、よき漁区、よき耕地 王の勢力を決定するものは、その勢力下にあるアリイの武力にある いてはアリイの武人化であり、恐らくその頃は一族従者の群が生産 になると、 ばれる最高貴族が国王として各島々に出来、武力を競りことが盛ん 従者に依って生産、主として漁撈が行なわれていたのであるが、 アリイが互いに縄張りの拡大を計るようになり、アリイ・ヌイと呼 と共に生産に従事し、むしろアリイが指導的地位に立ち、その一族、 特に希望する者に貸与するイリの制度が発生したのであろう。 た。初期の段階にあっては、アリイ層も、マカアイナナ層 耕地等が与えられ、所謂小作人的地位が形成される。国 生産はマカアイナナに一任され、彼らに土地が与えられ

豚・タロ芋・薩摩芋・羽根・カパ(紙布)・蓙等の 産物を 取上げてコノヒキと称する王国の代官が 各地区の貫租徴発担当者 と な り、ることを義務づけられてはいたが、自由民的立場にあった。然るに従って農夫は漁夫と同様に尊重された。彼らはその産物を貢納す

たと推測することが出来よう。令においてアリイと並べ置かれた点からみても、相当のものであっコノヒキの取分がどのくらいであったかは不明であるが、土地分割ゆくようになり、農民の生活は最低の限度に止められたのである。

一七七八年クックが発見した当時には島々に国王があり、互に勢力を維持せんとして争っていたが、恐らくこの段階に来るまでに、力を維持せんとして争っていたが、恐らくこの段階に来るまでに、アフプアアのアリイであるから問題はないが、イリ・クポノは国王アフプアアのアリイであるから問題はないが、イリ・クポノは国王アフプアアのアリイであるから問題はないが、イリ・クポノは国王の対抗ないのイ島におけるワイメア(Waimea)のアフプアアの十の支配者はの九はワイカロアの イリと プウカプの イリとに 包含されてしまった。恐らくその逆の場合もあったろう。又他のアフプアアにイリをもつアリイも発生した。

もあった。それらを領するアリイは一族の者を働かす場合もあったから山上に至る土地を含む原型に近いものもあれば、然らざるものコノヒキにはアフプアアが与えられている。そのアフプアアも海浜大の区劃であるモクは単なる地理的区劃と化し去り、各アリイ及び大の区割であるモクは単なる地理的区劃と化し去り、各アリイ及びカメハメハー世が一七九五年にハワイ諸島を征服し、ここにハワカメハメハイ世が一七九五年にハワイ諸島を征服し、ここにハワ

が、多くはイリとして小作せしめ、貢租を徴発する。イリ・クポノが、多くはイリとして小作せしめ、貢租を徴発する。イリ・クポノが、多くはイリとして小作せしめ、貢租を徴発する。イリ・クポノが、多くはイリとして小作せしめ、貢租を徴発する。イリ・クポノが、多くはイリとして小作せしめ、貢租を徴発する。イリ・クポノが、多くはイリとして小作せしめ、貢租を徴発する。イリ・クポノが、多くはイリとして小作せしめ、貢租を徴発する。イリ・クポノが、多くはイリとして小作せしめ、貢租を徴発する。イリ・クポノが、多くはイリとして小作せしめ、貢租を徴発する。イリ・クポノが、多くはイリとして小作せしめ、貢租を徴発する。イリ・クポノが、多くはイリとして小作せしめ、貢租を徴発する。イリ・クポノが、多くはイリとして小作せしめ、貢租を徴発する。イリ・クポノが、多くはイリとして小作せしめ、貢租を徴発する。イリ・クポノ

であったといえよう。

(昭和三十五年三月二十四日稿)
を極めて不十分の状態のままに、近世西欧文化に接触したものである。その状態を強いてわが国の場合と比較すれば、縄文式文化から数と式文化に移る頃の状態とみるべきであろう。ただ漁撈民族が農務生式文化に移る頃の状態とみるべきであろう。ただ漁撈民族が農務に大いては急激であった。このことがその後のハワイ王国には致命的影響がわが国の場合は隋唐文化であり、のイの場合は西洋文化であいては急激であった。このことがその後のハワイの場合は政治に、後者に響がわが国の場合は関連したものであり、農耕民族としての発展のカワイの状態は封建制以前のものであり、農耕民族としての発展のカワイの状態は封建制以前のものであり、農耕民族としての発展の方式を表

ギ IJ スに おける社会民主主義の形成過程 (その二)

-帝国主義の時期におけるイギリス労働運動と労働代表委員会-

三、「独立労働」の経済的背景二、帝国主義段階におけるイギリス労働者階級一、はしがき―――民主社会主義の幻影

うにのべられている。るものに接する機会をえた。これには、⇔党の理念としてつぎのよた民主社会党、いわゆる西尾新党の「われわれの党の基本原理」な最近結成され、ジャーナリズムによって、はなばなしく宣伝され

のである」と。 「われわれの覚は、民主社会主義の原理にたつ 人々の 政治的結れ、人格の自由な発展ができるような社会を建設しようとするもれ、人格の自由な発展ができるような社会を建設しようとするもれ、人格の自由な発展ができるような社会を建設しようとするもれ、人格の自由な発展ができるような社会を建設しようとするものである」と。

イギリスにおける社会民主主義の形成過程そして臼党の基本原理として、 幻個人の 尊厳と 人格の 自由な発

w 田

等に参加させるという点である。 い市民的自由の保証、代社会主義社会の実現、臼議会制民主主展、四市民的自由の保証、代社会主義社会の実現、臼議会制民主主展、四市民的自由の保証、代社会主義社会の実現、臼議会制民主主

が、おのずから明らかにされるであろう。また民主社会党が、現在上、おのでから明らかにされるである。この基本原理の分析と批判とするかどうかを検討するためである。この基本原理の分析と批判といるがでの否定――社会主義革命の拒否、個人主義的人格主義――ブルジョア民主主義の擁護、これらが果して社会主義と呼ばれるに値が強いて、民主社会党の本体は一体何であるか、それは日本の社会を通じて、民主社会党の本体は一体何であるか、それは日本の社会を通じて、民主社会党の本体は一体何であるか、それは日本の社会を通じて、民主社会党の本体は一様の基本を通じて、民主社会党の本体は一様の表示を通り、おのずから明らかにされるであろう。また民主社会党が、現在が、おのずから明らかにされるであろう。また民主社会党が、現在が、おのずから明らかにされるであろう。また民主社会党が、現在が、おのずから明らかにされるであるう。また民主社会党が、現在が、おのずから明らかにされるであるう。また民主社会党が、現在が、おのずから明らかにされるであるう。

七(四二三)